

## 令和4年度第2回広島市いじめ防止対策推進審議会会議要旨

### 1 開催日時

令和5年3月27日（月）18時30分～20時30分

### 2 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

### 3 出席者

#### (1) 審議会委員 5名

会長 宮里 智恵 （広島大学大学院人間社会科学研究科 教授）

副会長 寺本 佳代 （広島弁護士会 弁護士）

森川 早苗 （広島県臨床心理士会 臨床心理士）

開本 美由紀 （広島県社会福祉士会 社会福祉士）

岩井 優峰 （元広島県警察本部生活安全部参事官）

#### (2) 事務局（広島市教育委員会）

いじめ対策推進担当課長、生徒指導課職員

#### (3) 傍聴人 1名

### 4 議題等（公開・非公開の別）

(1) 令和4年度のいじめ防止等の取組状況について（報告）（公開）

(2) 令和5年度の取組の方向性について（公開）

### 5 会議資料

#### (1) 次第

#### (2) 配席表

(3) 資料 令和4年度 広島市におけるいじめ防止対策等の主な取組について  
別添資料① 一認め支え合う学級の実現に向けて—支持的風土の醸成された学級づくりのためのハンドブック「学校実践編」

別添資料② 令和4年度 全国いじめ問題子どもサミット ポスターセッション（吉島中学校）

別添資料③ 子どもの笑顔のために～いじめとはどんなもの？～（未定稿）

### 6 会議の要旨【○委員 ●事務局】

#### (1) 令和4年度のいじめ防止等の取組状況について（報告）

ア 資料「1(1)支持的風土の醸成された学級づくりに係る取組の推進」について

○ 別添資料①について、良い資料だと思う。活用の仕方を工夫してほしい。

○ 別添資料①は、具体的な事例を盛り込んだ資料になっており、非常に良いと思う。資料はどのように配布するのか。

● 資料は、システム上で共有し、教員がパソコン上でいつでも見ることができるようにする。

○ 各校が、学校の資源等を活用して、非常に工夫した取組を行っていると思う。例えば、戸坂城山小学校では、生徒理解の工夫として、教員が名簿を見ないで担当学級の児童生徒名を書き出すという取組をしているが、これにより、教員自身が、あ

の児童生徒とあまり話をしなかった等、自分を振り返ることができるし、自分の癖にも気付くことができる。どの学校も、いずれかの事例は活用できると思うので、これらの取組が広がってほしい。

#### イ 資料「1(2)教育相談の充実に係る取組の徹底」について

- 児童生徒一人一人と教育相談をするきっかけとして、アンケートに色々な角度からの質問を加え、工夫した取組をしている。令和4年度は、全ての児童生徒に対し、個別の教育相談ができており、取組が徹底できていると感じた。
- 全ての児童生徒に対し、個別の教育相談ができたということは良いことだと思うが、これで安心するのではなく、アンケートに記載されていない潜在化された問題等があるかもしれないという危惧を常に持っていてもらいたい。
- 教育相談は、学級担任が行っているのか。
- 基本的には、学級担任が行っているが、学級担任以外を希望する児童生徒については、他の先生が行っていることもある。
- どのような目的で教育相談を行っているのか。
- 一番大きな目的は、児童生徒が悩んでいることや嫌な思いをしていることがないかを確認することである。教員は、日頃から注意深く児童生徒を見ており、心配な児童生徒には声を掛ける等しているが、教員が気付くことができていないものがあるかもしれないため、教育相談を行っている。
- 教育相談に係る研修はしたのか。
- 行った。面談の方法等について、スクールカウンセラーに相談している学校もある。スクールカウンセラーと連携し、資質の向上に努めていかなければならないと考えている。
- 教育相談をする前に、アンケート等は行っているのか。
- 中学校や高等学校では、事前にいじめアンケート等をした上で、教育相談の日程を決めている学校が多いと聞いている。小学校は、教育相談の時間の確保自体が難しいので、学校によって異なる。
- アンケートの内容や時期について、スクールカウンセラーに相談している学校もあるとのことだが、専門家のアドバイスを受けながら、各校で取組を行ってほしい。

#### ウ 資料「1(3)ライフスキル教育・MLB教育（SOSの出し方に関する教育）の充実」について

- ライフスキル教育は、授業の一つとして行っているのか。
- 教育委員会が示した、年間5～6時間でアサーションスキルやコミュニケーションスキル等を学ぶライフスキル教育の指導計画を活用し、各校が特別活動の時間等で実施している。
- 資料1(1)や(3)の取組は、いずれも児童生徒に生きる力を付けることを目的に行っている取組だと思う。それぞれの取組の繋がりを整理し、全体像を教員に示したほうが良いのではないか。

#### エ 資料「1(4)学年間・学校間の情報引継ぎの定着」について

- 「情報引継ぎの有効性を実感した園・学校が多く、情報引継ぎがスムーズに行われていた。」とあるが、どのような取組をしたことで良い方向に転じたのか。
- 様式を統一した幼保小連携シートを、全ての保育園、幼稚園及び小学校に示し、

引継ぎを行うようにした。

- 様式を統一したことは、大きい。どこを見れば必要な情報が書いてあるかを共通認識として持っていれば、転勤等があっても情報が得やすくなる。様式の統一という作業の単純化により、取り組みやすくなるのではないかと思う。
- 情報引継ぎの実績は、どのくらいあるのか。
- どれくらいの子供の情報が引き継がれているのかは、把握していない。園と小学校の間で、引継ぎが必要だと考える児童の情報を引き継いでいる。
- 引継ぎは、園と小学校だけで行っているのか。あるいは、教育委員会もその場に立ち会っているのか。
- 園と小学校のみである。教育委員会は、引継ぎの良い点や課題について、校長会や園長会を通じて確認し、情報収集を行っている。

**オ 資料「1(5)児童生徒による主体的ないじめ防止に向けた取組の充実」について**

- 吉島中学校の劇は、生徒がシナリオを作ったのか。
- そう聞いている。
- 生徒がシナリオを作り演じる、話をするということは、とても意味のあることだと思う。生徒主体、生徒発信というところが、とても注目できる。また、教員も出演したとのことだが、教員と一緒に作っていく、学校と一緒に作っていくということも良い。「全国いじめ問題子供サミット」という良い機会に恵まれ、そこで発表ができるということは、生徒が自分たちに誇りを持てたのではないかと思う。

**(2) 令和5年度の取組の方向性について**

- 「周知」、「共有」、「連携」という言葉が印象的だった。これまでの取組等で成果が出た事例や、逆に上手くいかなかった事例等、情報が各校に行き渡ることが大切だ。来年度も一層充実した年度にしてほしい。
- 子供だけでなく、教員も人権感覚を磨く必要がある。
- 学年間・学校間での情報共有や連携はとても大事なことだ。ただし、守秘義務違反やプライバシー侵害の問題が生じて、子供たちが傷ついた事例もあるため、研修や注意喚起をした上で、取組を行ってほしい。
- 子供を守るという観点で色々な施策を行うことにより、いじめ問題に係る取組は前に進んでいっているし、みんなの意識も変わってきていると思う。いじめの問題は、簡単なものではない。だからこそ、一生懸命、みんなで何かできることはないかを考えていくことが大切だと思う。
- どの取組も子供たちの笑顔を守るためということに尽きる。吉島中学校のポスターセッション（別添資料②）は、とても丁寧な文字で書かれており、生徒たちのやり切った雰囲気を感じる。このような好事例を共有することにより、各校が出来ることに携わっていければよい。